



ごあいさつ



平成17年7月7日の西枇杷島町、清洲町及び新川町の3町合併により誕生した清須市は、平成21年10月の春日町との合併を経て、市制施行から11年が経過しました。この間、平成19年度から10年間の清須市の行政運営の基本的な指針として定めた「清須市第1次総合計画」に基づき、「安心」・「快適」・「創造」・「責任」の4つの基本理念のもと、「水と歴史に織りなされた 安心・快適な環境都市」の実現を目指して、新市の礎を着実に築き上げてまいりました。こうした中、来年1月には、市役所北館が供用開始となり、合併以来の懸案であった本庁方式へと移行いたします。

一方で、現在の清須市を取り巻く環境は、新市が誕生した当時とは大きく変化しており、次の新たな課題に直面しております。

1点目は人口減少・少子高齢化であります。平成27年の国勢調査において日本の総人口が初めて減少するなど、国・地方を通じて人口減少の克服が大きな政策課題となっております。清須市においても、平成32年をピークとして減少局面を迎えることが予想されており、今の段階から長期的な展望をもって、人口減少対策に取り組むことが必要です。

2点目はリニア中央新幹線の開業であります。平成39年に予定されている東京-名古屋間の開業により、名古屋都市圏は東京40分圏に位置付けられることとなります。名古屋駅に至近の清須市としては、リニアがもたらす様々なインパクトを、積極的にまちづくりへ生かしていく必要があります。

3点目は市町村合併に対する財政措置の終焉であります。普通交付税の合併算定替が平成32年度をもって完全に終了するなど、今後迎える市町村合併に対する財政措置の終焉は、清須市の行財政運営上の大きな課題です。この点を踏まえて、これまで以上に、経営的な視点をもって、計画的・効率的な行財政運営を進めていくことが必要です。

こうした課題認識のもと、これまで築き上げてきたまちづくりの成果を基盤として、未来に向かって更なる前進を図っていくため、このたび「清須市第2次総合計画」を策定いたしました。

第2次総合計画では新たな基本理念として、「安心」・「快適」・「魅力」・「連携」の4つを掲げました。市民の皆様暮らしの基盤となる「安心」・「快適」の確保に引き続き全力で取り組むとともに、より清須市らしさを発揮するため、市の個性である水と歴史を生かして、市の「魅力」を一層高めていきたいと考えております。

また、社会経済情勢の変化に的確に対応しながら、行政としての役割を果たしていくためには、市民の皆様や、企業・団体の皆様との「連携」をこれまで以上に推し進めていく必要があると考えております。加えて、人口減少社会を迎える中であって、将来世代に過度の負担を残さず、若い世代が希望をもって暮らすことができる、未来へと「つながる」まちづくりも進めていかなければなりません。

市民の皆様お一人おひとりが、自分らしくいきいきと暮らすことができ、地域全体に活気が満ち溢れた「水と歴史に織りなされた 安心・快適で元気な都市」の実現を目指して、この第2次総合計画で掲げる政策・施策の推進に全力で取り組んでまいります。引き続き、市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成28年12月

清須市長 加藤 静治